

令和元年度（国語科）授業改善推進プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的な指導計画
1年	<p>①文章を読み、自分の考えを形成する力が不十分な生徒がいる。</p> <p>②言語の知識や能力の定着に差がある。</p>	<p>①単元ごとに学習の振り返りをクラスで集約し、思考や表現の方法を学び合う。</p> <p>②漢字テストの結果に応じて個別に課題を設定する。</p>	<p>①着目すべき観点をより具体的に示して考えを書かせる。</p> <p>②既習事項も含めて基礎的な部分から復習させる。また定期考査前や夏季休業中に補充教室を設け、知識の定着を図る。</p>
2年	<p>①わかりやすい板書、資料の提示を行う。</p> <p>②わかりやすい説明を行う。</p> <p>③落ち着いて取り組める環境作りに努める。</p>	<p>①板書が詰まりやすいので内容を精選する。画像なども活用する。</p> <p>②板書と合わせ、大切なことは反復する。ゆっくり話す。個別に声かけを行う。</p> <p>③授業準備の声かけを徹底し、授業中に後ろに教材を取りに行かせない。 グループやペアワークなどでは内容を明確にし、雑談をする雰囲気を作らない。</p>	<p>①板書をパターン化していく。</p> <p>②復習の機会を多くもたせ、生徒たち自身にも説明させ内容を定着させる。</p> <p>③タイマーを活用し、時間の有効利用を意識させ、集中力を上げる。</p>
3年	<p>①わかりやすい説明を行う。</p> <p>②わかりやすい板書、資料や見本の提示を行う。</p> <p>③落ち着いて取り組める環境作りに努める。</p>	<p>①②簡潔に説明することを心がける。授業の進行上、ワークシートに全ての説明、指示、見本を示しているが、さらにわかりやすくするとともに、黒板にもポイントを明示するようにする。</p> <p>③個人やグループで自主的に行う活動が多いため、どうしても声が出てしまうことがあるが、静かに学習したい生徒のことも考え、声掛けをしていく。</p>	<p>①定期考査前に質問教室を開き、理解が不十分な生徒への指導をする。</p> <p>②達成度の高い生徒のワークシートを見本として提示し、やり方のわからない生徒への補充指導とする。</p> <p>③ワークシートや実技テストに関しては再提出、再テストを認め、自宅などで自分のペースで取り組めるようにする。</p>